

2022年6月30日(木)

老球の細道676号

6月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

光陰矢の如し。68歳幸齢者真最中も半年が過ぎた。丑(牛)年ということで牛歩のごとく何事もゆっくり進んできたつもりが、時間は冷酷である。庭の朝顔が咲き始め、いよいよ真夏。ゲームは後半、3クォーターから流れが変わる。暑さに負けず、さらに熱くなりたい。

1・テレビ、映画から

◆「アレクサンドロス大王は遠征に行く時、全ての財産を部下に与えた。側近は心配して王の手元に何を残すのか尋ねた。大王曰く“希望だけだ”」〈NHK 高校講座・世界史・「ギリシアと都市国家」〉: 国のリーダーの資質が問われる時代である。無欲でロマンに満ちたリーダーの元に部下はついて行く。爺も「希望と共に若く、失望と共に老いる」をもう一度確認。

◆「格上への人の努力のスタイルを真似て、相手がやってこなかったことを見つけて、それを自己流でうめる」〈NHK・知恵泉・ソムリエ・田崎真也〉: 格上を破るためにも「守、破、離」の原則である。かつてバレーボールの松平康隆(ミュンヘン五輪男子金メダル監督)も説く①相手の持っているものを全部持て②相手が持たず、自分だけが持つものを持つ。

2・読書から

◆「“ないない”を数えながら生きるのと“あるある”を大切にしながら生きるのではどちらが幸せか?」〈和田秀樹著『80歳の壁』幻冬舎新書〉: 人生の残り時間は少なくなっていくが、経験とその濃密度は高まっていく。「而今」、お酒と今この瞬間を大切に生きたい。

3・新聞、パンフレット等から

◆「“何が難しいか”と問われて、タレスが言うことには“自己を知ること”。“何がやさしいか”と問われると、“他人に忠告すること”」〈朝日: 多事奏論〉: かつて私の周囲には他人に忠告する先輩方がたくさんいた。飲み会になると、さらに忠告の量が増えた。おかげさまでタレスなど知らない時にたくさん的人生勉強をさせていただいた。

◆「原動力はゲームに対する情熱。歴史の中で一番になることではない。テニスをするのが好きなんだ。今は常に“これが最後”と言う気持ちで戦っている」〈朝日: 全仏オープン: ラファエル・ナダル〉: 4 大大会では男子歴代最多の22勝目。そして歴代最年長の36歳での優勝。その原動力は「テニスが大好き」。「好きで好きでたまらない」ことも能力である。

◆「飛べるかどうかを疑った瞬間に永久に飛べなくなる」〈朝日: 天声人語〉: 金融緩和で何かと批判の対象である黒田総裁が、かつてピーターパン物語の言葉を引用して語った自らの決意である。「信は力なり」。何事も疑った瞬間、自分の期待したことは夢、幻となる。

◆「1人の偉業が次の呼び水になる」〈朝日: 天声人語〉: プロ野球ではロッテの佐々木朗希投手の完全試合をきっかけにして今季の無安打無得点が4投手となった。かつての日本陸上100メートル走「10秒の壁」突破の連鎖を思い出す。選手の成長はある日突然訪れる。その成長がチームに波及効果を及ぼし、「俺も、私も」と皆が成長の連鎖反応を起こす。